

浸水深が0m~0.5m未満の区域
1階の床下まで浸水する程度

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 C C C C

浸水深が3.0m~5.0m未満の区域
1階の天井から2階の天井近くまで浸水する程度

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 A A A B

浸水深が0.5m~3.0m未満の区域
1階の床上から1階の天井まで浸水する程度

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 A B B C

浸水深が5.0m~10.0mの区域
2階の天井以上まで浸水する程度

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 A A A A

3 氾濫流による家屋倒壊の想定区域の外(内)を確認し、自宅や職場の危険度を判定する。

- ※家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
氾濫流の直撃により建物が流失してしまうと想定される範囲
- ※家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
氾濫流により河岸の侵食を受け、建物や土地が流失してしまうと想定される範囲



氾濫流により木造家屋の倒壊を引き起こす区域

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 A A B B

氾濫流により河岸が侵食され住宅の倒壊を引き起こす区域

木造建築 鉄筋・鉄骨鉄筋
コンクリート建築

危険度 A A A A



4 危険度に応じた避難行動指針を確認する。

- 立ち退き避難は、浸水前に避難を完了しておくことが原則です。
- 屋内安全確保の場合は、家族分の備蓄品を用意しておきます。

危険度	浸水前	浸水後
危険度 A	○立ち退き避難 ×屋内安全確保	×立ち退き避難 ×屋内安全確保
危険度 B	○立ち退き避難 △屋内安全確保	×立ち退き避難 △屋内安全確保
危険度 C	○立ち退き避難 ○屋内安全確保	×立ち退き避難 △屋内安全確保
危険度 D	想定では浸水していませんが、想定をはるかに超える事象が発生した場合には浸水が生じることもあり得ます。洪水への対応を考えて備えておくことが大切です。	

5 避難行動指針の判定結果から避難の際の注意点を確認する。

- 重要な防災情報の意味を理解する
- 災害に関する情報を入手する
- 避難行動の基本原則を理解する
- 指定緊急避難場所を確認する
- 浸水がどのくらい継続するのか確認する

裏面を確認してください。

